

第52回	1990. 4.21	K.Riesenhuber 著	『中世における自由と超越』をめぐって
第53回	6.30	塩谷 惇子	おとめエバ・おとめマリア —教父エイレナイオスを読む—
第54回	10.13	萩野 弘之	「生まれる」ことの文法 —Gregorius Naziazenus, Oratio Theologica をめぐって—
第55回	1991. 1.26	加藤 信朗	アウグスティヌスの三位一体論(続)
第56回	4.13	井上 忠	聖書の言語
第57回	6.29	小高 毅	オリゲネスのパウロ解釈 —ローマ書の「予定」と「選び」を中心に して—
第58回	10.12	宮内 久光	行為について
第59回	1992. 1.25	塩谷 惇子	エイレナイオスの聖霊論
第60回	4.18	泉 治典	Athanasius, Epistola ad Serapionem より —三位一体論・受肉論・聖霊論の 内的連関をめぐって—
第61回	7. 4	N.B.McLynn	Ambrose, Theodosius and the council of Constantinople (381)
第62回	10.17	荒井 洋一	Soliloquia における祈りと探究
第63回	1993. 1.23	岡野 昌雄	聖書解釈の多義性と真理性 『告白』の創世記解釈をめぐって

- 第39回 1987. 1.31 酒井 紀幸 クザーヌスにおける根源の試作  
——存在と思惟の対峙——
- 第40回 4.18 井上 忠 意志と行為
- 第41回 6.27 K.Riesenhuber 11・12世紀の自由論  
——アンセルムスとベルナルドゥスを  
中心に——
- 第42回 10.17 樋笠 勝士 言葉の効用  
——アウグスティヌス, De Magistro ——
- 第43回 1988. 1.30 荒井 洋一 Quid est tempus?  
——Augustinus, Conf. XI, xiv, 17——
- 第44回 4.16 柴田 有 ユスティノスの聖書解釈における視覚の問題
- 第45回 7. 2 加藤信朗著 『初期プラトン哲学』をめぐって
- 第46回 10. 8 水落 健治 Augustinus: De Dialectica における  
vis verbi について
- 第47回 1989. 1.28 谷 隆一郎 知と生成の構造をめぐって  
——アウグスティヌスと  
ニュッサのグレゴリオス ——
- 第48回 5. 6 野町 啓 フィロン研究の最近の動向
- 第49回 7. 1 岡部由紀子 アウグスティヌスの懐疑論批判  
Contra Academicos
- 第50回 10. 7 中川 純男 アウグスティヌス『三位一体論』における  
認識の構造
- 第51回 1990. 1.27 清水 哲郎 オッカムの言語哲学

- 第25回 1983. 5. 7 宮本 久雄 神の像を刻むこと  
—ニュッサのグレゴリオス  
『モーセの生涯』について—
- 第26回 7. 2 野町 啓 ヘノーシス  
—ポエーティウス第5神学論文の—背景—
- 第27回 10. 1 出村みや子 国際教父研究集会 (Oxford) に出席して
- 第28回 1984. 1.28 加藤 信朗 挫折と予感  
—アウグスティヌス『三位一体論』第15巻  
をめぐって—  
〈『三位一体論』・シュムボシオン・追走  
(追想)と拾遺〉
- 第29回 6.23 加藤 武 De doctrina christiana における  
verbum と Verbum
- 第30回 10. 6 伊吹 雄 ヨハネ福音書の信仰批判
- 第31回 1985. 1.19 岡野 昌雄 アウグスティヌスの「ミラノ体験」
- 第32回 4.20 山崎 裕子 アンセルムスの道徳観をめぐって
- 第33回 6.29 藤田 一美 アウグスティヌスの言語論の一側面
- 第34回 10. 5 熊田陽一郎 ディオニュシオス・アレオバギタの  
『神名論』第二章について
- 第35回 1986. 1.18 小高 毅 トゥーラ文書と『ヘラクレイデスとの対話』
- 第36回 4.19 宮本 久雄 トマス・アキナスにおける意志の自由
- 第37回 6.28 今道 友信 悪の問題
- 第38回 10. 4 泉 治典 サン・ヴィクトールのフーゴーにおける  
啓示と歴史

- |      |            |               |  |
|------|------------|---------------|--|
| 第10回 | 1979. 6.16 | 坂口 ふみ         | オッカムの予定論   |
| 第11回 | 10.27      | 中沢 宣夫         | アウグスティヌスにおける Conscientia   |
| 第12回 | 1980. 1.26 | 伊吹 雄          | ヨハネ福音書の〈光〉について   |
| 第13回 | 4.12       | 今道 友信         | Imago と signum   |
| 第14回 | 6.28       | 泉 治典著         | 『アウグスティヌスからアンセルムスへ』<br>をめぐって   |
| 第15回 | 10.25      | 荒井 洋一         | 「泣くことはなぜ甘美であるのか」<br>— Conf. IV,v,10  |
| 第16回 | 1981. 1.31 | 小山 宙丸         | クザーヌスのアポロギア  |
| 第17回 | 4.18       | K.Riesenhuber | 『プロスロギオン』第二章について   |
| 第18回 | 6.13       | 金子 晴勇         | アウグスティヌスの身体論   |
| 第19回 | 10. 3      | 岡部由紀子         | Signum と intellegere<br>—アウグスティヌスの聖書解釈論—   |
| 第20回 | 1982. 1.30 | 泉 治典          | プロティノスとアウグスティヌスにおける<br>悪の問題  |
| 第21回 | 4.24       | 柴田 有          | グノーシス派をめぐって  |
| 第22回 | 6.26       | 宮内 久光         | 存在の類比について  |
| 第23回 | 10. 2      | 井上 忠          | アナロギアについて  |
| 第24回 | 12.18      | 稲垣 良典         | トマスの徳概念についての一考察<br>—徳と Iustificatio—<br>Summa Theologiae IIa, IIae,<br>quaest.4. articl.5. |

## 教父研究会の歩み (第1回～第63回)

※場所 第1回～第55回 東京都立大学  
第56回～ 聖心女子大学

(1976年秋 設立準備会)

回	年月日	発表者	題 目
第1回	1977. 4.23	加藤 信朗	外と内をこえるもの —アウグスティヌスの Confessiones Lib.X-XIの解釈のために
第2回	6.25	今道 友信	Boetius とプラトニズム
第3回	10.22	K.Riesenhuber 泉 治典 (討論)	中世のプラトニズムをめぐる 当年催される秋の中世哲学会の シンポジウムに向けて
第4回	1978. 1.28	熊田陽一郎	Ps.-Diosysius の「神名論」 —E.v.Ivanka の Plato christianus* の所論に関連して—
第5回	4.22	岡野 昌雄	AugustinusのMemoria 論 —「告白」第10巻を中心に—
第6回	7. 1	野町 啓	キケロの「アカデミカ」と教父 —C.B.Schmitt,Cicero Scepticus (1970)を中心に—
第7回	10.28	加藤 武	Ibi religatas primitias spiritus —「告白録」IX, x, 24—
第8回	1979. 1.27	宮内 久光	Bonum について
第9回	4.28	井上 忠	内面をめぐる